

**製品名:** インテグリン  $\beta$ 2 (リン酸化 Thr758) ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab04854

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	170kDa

## 抗原情報

遺伝子名	ITGB2
別名	ITGB2; CD18; MFI7; Integrin beta-2; Cell surface adhesion glycoproteins LFA-1/CR3/p150; 95 subunit beta; Complement receptor C3 subunit beta; CD antigen CD18
遺伝子 ID	3689.0
SwissProt ID	P05107
免疫原	抗血清は、ヒト CD18/ITGB2 の Thr758 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 720-769

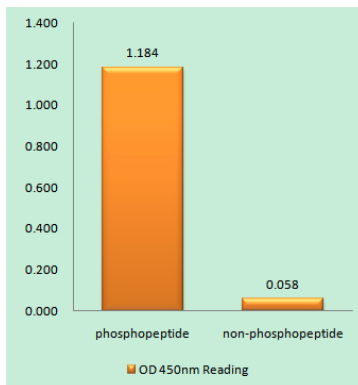
## 背景

この遺伝子はインテグリン  $\beta$  鎖をコードしており、この鎖は複数の異なる  $\alpha$  鎖と結合して異なるインテグリンヘテロダイマーを形成します。インテグリンは細胞表面の不可欠なタンパク質であり、細胞接着および細胞表面を介したシグナル伝達に関与しています。コードされているタンパク質は免疫応答において重要な役割を果たしており、この遺伝子の欠陥は白血球接着不全症を引き起こします。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2014年12月]、疾患: ITGB2 の欠陥は、白血球接着不全症 I 型 (LAD1) [MIM:116920] の原因です。LAD1 患者は細菌感染症を繰り返すため、白血球の接着に依存するさまざまな機能が欠損しています。機能: インテグリン  $\alpha$ -L/ $\beta$ 2 は、ICAM1、ICAM2、ICAM3、および ICAM4 の受容体です。インテグリン  $\alpha$ -M/ $\beta$ -2 および  $\alpha$ -X/ $\beta$ -2 は、補体第 3 成分の iC3b フラグメントおよびフィブリノーゲンの受容体です。インテグリン  $\alpha$ -X/ $\beta$ -2 は、フィブリノーゲン  $\alpha$  鎖の G-P-R 配列を認識します。インテグリン  $\alpha$ -M/ $\beta$ -2 は、フィブリノーゲン  $\gamma$  鎖の P1 および P2 ペプチドを認識します。インテグリン  $\alpha$ -M/ $\beta$ -2 は、第 X 因子の受容体でもあります。インテグリン  $\alpha$ -D/ $\beta$ -2 は、ICAM3 および VCAM1 の受容体です。オンライン情報: ITGB2 変異データベース, PTM: T 細胞がホルボールエステルにさらされると、Ser-745 と Ser-756 の両方がリン酸化されます。Thr-758 のリン酸化 (Ser-756 はリン酸化されない) により、14-3-3 タンパク質との相互作用が可能となる。類似性: インテグリン  $\beta$  鎖ファミリーに属する。類似性: 1 つの VWFA ドメインを含む。サブユニット:  $\alpha$  サブユニットと  $\beta$  サブユニットからなるヘテロ二量体。 $\beta$ -2 は  $\alpha$ -L、 $\alpha$ -M、 $\alpha$ -X、または  $\alpha$ -D のいずれかと会合する。COPS5 および RANBP9 と相互作用する。

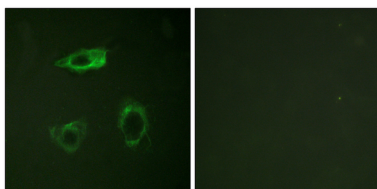
## 研究分野

細胞接着分子 (CAM)、ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害、白血球の内皮透過性遊走、アクチンと細胞骨格の調節、ウイルス性心筋炎

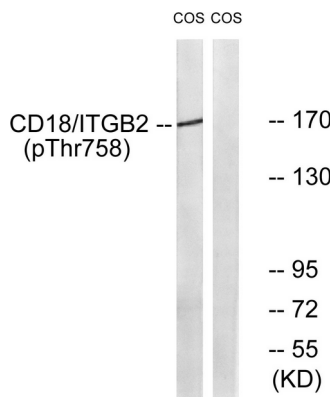
## 画像データ



CD18/ITGB2 (リン酸化 Thr758) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



CD18/ITGB2 (リン酸化 Thr758) 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



EGF 200 ng/ml 30 分処理した COS7 細胞ライセートの CD18/ITGB2 (リン酸化 Thr758) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロックされている。